

課題別研修

－暴力行為防止パッケージ H27事例－

○以下の語は（ ）内を意味する
S S E（ソーシャルスキル教育）

暴力行為事例（小学校）

- 1 A男は5年生の4月に転校してきた。転校前の学校では、自分の思いを上手く伝える
2 ことができず、低学年の頃から友達とのけんかが多く、学校での様子を家庭に連絡する
3 ことも度々あった。
- 4 4月、授業中は落ち着いた様子で、当番活動や清掃活動にも真面目に取り組んでいた。
5 しかし、無口で休憩時間は一人で過ごすことが多く、低学年の教室前の廊下を歩いてい
6 る様子を1年生や2年生の担任が目撃していた。保健室を訪れることもしばしばあった。
- 7 6月になると、A男は教室が騒がしい時にイライラして「うるさい！！」と大声で怒
8 鳴ったり、机を蹴ったりするようになった。こうした行動に対して、担任は強い口調で
9 注意するようにしていたが、次第に担任の指導に対して、反発して暴言を吐くようにな
10 った。他の児童はA男と関わることを避けるようになり、ますますA男は孤立していっ
11 った。6月の終わり頃には、A男は、担任だけでなく、他の教師にも反抗的な態度をとる
12 ようになり、教師が厳しく注意をすると扉を蹴ったり、物を投げたりして暴れるよう
13 になった。
- 14
- 15 担任は、教務主任と生徒指導担当に相談した。生徒指導担当は、管理職と他学年の教
16 員へ連絡し、校内でケース会議を行い、今後の具体的な支援方針について話し合った。
- 17 教務主任の提案で、学級活動全般で、トラブル解決のためのS S Eに取り組むことに
18 した。
- 19 しばらくすると、数名の男子がA男に話しかけるようになり、休憩時間には運動場で
20 みんなと一緒に楽しそうに遊ぶ姿が見られるようになった。A男は依然として自分の思
21 いを上手に伝えることができにくいが、徐々に自分の感情をコントロールできるよう
22 になり、イライラし暴れることは少なくなった。

課題別研修

－暴力行為防止パッケージ H27事例－

暴力行為事例（中学校）

1 A男は、こだわりが強く、自分の思い通りにならなかったり、先生から注意されたり
2 すると扉を蹴るなど物に当たることが多くあり、担任も対応に悩んでいた。多くの生徒
3 はA男と関わるのを避けていた。また、他の生徒や保護者からは「A男の指導について
4 もっと厳しくして欲しい。」と担任に要望が届いていた。A男と関わりの少ない教師が、
5 暴れているA男に声をかけるとさらに興奮することから、他の教師は直接声をかけず担
6 任に指導を任せていた。そのため担任はA男を注意することが増えていった。A男は、
7 「担任は自分ばかり注意する。」と保護者に伝えていた。

8 一方で、A男は、運動能力が高く、体育の授業を楽しみにしていた。行事があると張り
9 切って参加しようとしていたが、自分の思い通りにならないことがあると、すぐに機
10 嫌が悪くなり、腹を立てて活動に参加しないことが多かった。行事に参加できない時は、
11 保健室で過ごすことが多かった。

12 ある日、廊下の掲示物が破られていた。他の生徒からA男が近くにいたことを聞いた
13 ため、担任はすぐにA男を職員室へ呼び、「廊下の掲示物が破られていたが知らない
14 か？」と尋ねた。A男は「疑われた。」と言って職員室で暴れはじめ、教室へ戻ってか
15 らも、机や椅子を蹴飛ばした。その机がB子の足に当たった。すぐにB子は病院へ行き、
16 打撲と診断を受けた。担任がA男の母親へ電話で連絡すると、母親は「担任の対応が悪
17 いから息子が暴れた。」と担任の責任を追求した。

18
19 担任は、学年主任と生徒指導主事に伝えた。生徒指導主事は、管理職と他学年の教員
20 へ連絡をし、次のように役割分担をし、チームとしてこの問題に取り組むことにした。

21
22 A男への指導、支援・・・担任、生徒指導主事、養護教諭

23 A男の保護者への対応・・・担任、学年主任、生徒指導主事

24 B子への対応・・・担任、養護教諭

25 B子の保護者への対応・・・担任、学年主任、養護教諭

26
27 放課後、担任と生徒指導主事でA男の対応をした。担任は「A男を疑ったのではなく
28 事情を聞こうとした。」ことを丁寧に説明し、A男の気持ちに寄り添うように話を聴い
29 た上で、暴力行為は絶対に許されないことであると指導した。A男は「上手く人と関わ
30 ることができない。」「いつも失敗をしてしまう。」と泣きながら訴えた。

31 今後のA男への支援として、A男がイライラして暴れそうになった時には先生に「保
32 健室へ行かせてください。」と伝えてから保健室へ行くこと等、具体的に対処方法を説
33 明した。また、教職員間では、授業が空いている教員がA男の話を聞くなどの対応をす
34 ることを決め、A男が「保健室へ行かせてください。」と言ってきた時の対応について、
35 教職員全員で共通理解を図った。

36 担任は、放課後の指導について来校したA男の保護者へ伝えた。翌日、A男は、両親
37 と一緒にB子の家に行き謝罪をした。

課題別研修

－暴力行為防止パッケージ H27事例－

暴力行為事例（高等学校）

1 A男は、中学校時代は明るく活発な生徒で、所属していたバスケットボール部では、
2 日々の練習に意欲的に取り組み、上級生になると中心選手として活躍していた。勉強は
3 得意ではないが、自分なりに頑張っていた。クラス内でも部活動内でもムードメーカー
4 的存在であったが、思ったことを言葉に出してしまうところがあり、同級生とトラブル
5 になることがあった。

6 高校に入学後、A男は何事にも意欲的に取り組み、バスケットボール部にも入部した。
7 4月の担任との面談では「学校が楽しい。」と話しており、クラスでも活発に発言して
8 いる様子が見られていたことなどから、担任は特に心配していなかった。6月になり、
9 A男の課題の提出状況が悪くなり、定期考査の成績が思わしくなかったことから、担任
10 がA男に声をかけたところ、A男は「授業が難しくて分からない。」と答えた。担任は、
11 部活動も大切だが、家での勉強をしっかりと課題を必ず提出すること、分からないこ
12 とは先生に質問することを伝えた。その後も、課題の提出状況は改善されず、次第に授
13 業中に居眠りをするようになってきた。その度に、教科担任や担任が注意し、家庭
14 へ連絡して、協力を依頼したが、改善されなかった。

15 二学期が始まってからも、A男の授業態度は改善されず、夏休みの課題もほとんど提
16 出されなかった。そんなA男に担任は、「このままでは進級も難しくなるぞ。」と厳し
17 く注意した。家庭へも連絡し、家庭学習をさせるよう、強く依頼した。それ以降、A男
18 は部活動を休みがちになり、次第に、表情が暗くなり、元気のない姿がよく見られるよ
19 うになった。

20 9月中旬、文化祭で行うクラスのステージ発表の練習中に、ふざけた態度をとってい
21 るA男に担任が注意をしたところ、A男は、「うるせんじゃ！」と暴言を吐いた。A男
22 を指導するため、担任がA男に近づいていったところ、興奮したA男は担任の胸ぐらを
23 つかみ、そのまま床に押し倒した。同じ体育館に居合わせたB教諭が駆けつけ、A男を
24 引き離し別室へ連れて行った。

25 担任は、学年主任に伝え、学年主任は生徒指導主事と管理職に報告をした。そこで、
26 生徒指導委員会を開き、今後の指導方針を確認した。

27 放課後、学年主任と学年生徒指導担当教諭、担任でA男の対応をした。まずは、A男
28 から事情を詳しく聞き、気持ちを丁寧に聴き取った。その上で暴力行為は絶対に許され
29 ないことであると指導した。A男は、「勉強についていけない。」「学校に行く意味が分
30 からない。」と泣きながら訴えた。生徒指導委員会では、A男の気持ちは認めつつ、対
31 教師暴力行為として特別指導をすることにした。

32 今後の指導について、A男の暴力行為の背景には、抱える悩みが多くあると考えられ
33 るため学習面では、授業や放課後学習等で支援をすること、生活面では、できるだけ多
34 くの教員がA男と関わりをもつことで、不安や悩みを解消できるようにすることを教職
35 員全員で共通理解を図った。